

## 外国語科(英語)

英語の言語活動：「読むこと」、「書くこと」はどう変わったか。

### ウ 読むこと

- (ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。
- (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。
- (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。
- (エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。
- (オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

### ★ ポイント

- (ア) 英語の綴りをみて正しく発音できることなど、音声に慣れ親しんだ小学校からの円滑な接続を図る。
- (イ) 「いくつかの情報を整理して正確に読み取る」ことに課題があることからそのことに対応した。
- (エ) 「文章」とは、まとまりのある英文のことである。
- (オ) 「まとまりのある内容の文章を書くこと」に課題があると指摘されるが、読みの目的を予め示すなどして、単に知識等を得ることにとどまらず「話すこと」、「書くこと」に結びつける必要性がある。

### エ 書くこと

- (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
- (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。
- (エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。
- (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

### ★ ポイント

- (イ) 「語と語のつながり」とは、語順のことである。「文構造や語法の理解が十分でなく正しい文が書けない」という課題に対応している。語の配列や修飾関係などの特徴を日本語との対比で捉えて指導を行うことも考えられる。
- (ウ) 「読んだり」「聞いたり」したことに、自分の考えや気持ちに理由を添えて書くことでさらなる言語活動に発展すると考えられる。
- (エ) 日常生活の出来事や体験は、書く意欲を持ちやすいテーマとなりうる。
- (オ) 「内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力」に課題があることに対応している。接続詞や副詞、代名詞の活用を行いながら一文単位でなく文の順序や相互の関連にも注意を払う。

